

ワクチン新聞

令和2年 冬号

発行：田辺三菱製薬株式会社 大阪市中央区道修町 3-2-10

TOPICS

- みずぼうそうの流行の特徴
- 感染症による脱水を予防しましょう

監修：川崎医科大学小児科学教授 中野 貴司 先生



みずぼうそうの流行の特徴

みずぼうそう(水痘)は、空気、飛沫、接触感染によって人から人へ広がる、感染力の強い病気です。冬から春に多く発症しますが、年間を通じて報告されており^{*1,2}、特に入園や入学など新たに集団生活を送るようになる春に、みずぼうそうに対する免疫をもっていないお子さんは感染する可能性が非常に高くなります。

みずぼうそうに対する免疫をつけるにはワクチンが有効です。みずぼうそうワクチン接種が2014年10月から定期接種になったことで、患者数は大きく減少しました。定期接種スケジュールは、1歳以上3歳未満のお子さんに、3か月以上の間隔をあけて2回接種します。定期接種の年齢を過ぎてしまったお子さんも、2回のワクチン接種を受けることで十分な免疫をもつことができるため、積極的に接種することが勧められています^{*3}。

- * 1 国立感染症研究所：病原微生物検出情報月報 Vol.34 No.10 (No.404) <https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/iasr/34/404j.pdf>
- * 2 国立感染症研究所：感染症発生動向調査週報 2020 年第 35 週 <https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/idwr/IDWR2020/idwr2020-35.pdf>
- * 3 日本小児科学会：日本小児科学会の「知っておきたいワクチン情報」No.18 水痘ワクチン http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/VIS_18suitou.pdf

みずぼうそう(水痘)ワクチンの定期接種スケジュール

■ 定期接種の推奨期間 ■ 定期接種の接種可能な期間

対象年齢：1歳以上3歳未満



感染症による脱水を予防しましょう

細菌やウイルスなどが原因で起こる感染症には、発熱、下痢、嘔吐などを引き起こすものがあります。発熱によって大量の汗をかいたり、激しい下痢、嘔吐などで体液が失われたりすると、脱水となり、めまいや食欲不振などさまざまな症状が現れます。

特に赤ちゃんは、大人と比べると体に占める水分量の比率が高く、また、体重当たりの1日に必要とする水分量も多いため、発熱、下痢、嘔吐によって容易に脱水になってしまいます^{*4}。また、のどの渇きや体調の異変を自分から訴えられないため、気づかないうちに症状が進んでいることがあります。脱水がこわいのは、血液の量が減り、大事な臓器に必要な酸素や栄養素を送る能力が低下してしまうことなどにあります。

こうした脱水を引き起こさないためにも、感染症の予防は重要です。

ワクチンで予防できる感染症には、予防接種が効果的です。ワクチンを接種することで、感染症にかかっても、発熱や下痢、嘔吐などの症状を軽く抑えることにより、脱水などに陥るリスクを減らすことができます。

乳幼児期にかかりやすい感染症にはワクチンで予防できるものがたくさんあります。お子さんのワクチン接種歴を母子手帳などで確認しましょう。

- * 4 厚生労働省：保育所における感染症対策ガイドライン(2018年改訂版) <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000201596.pdf>

ワクチンの接種もれがないか
母子健康手帳で確認



ワクチン質問箱

質問

みずぼうそうの生ワクチンについて教えてください。

回答

みずぼうそうの生ワクチンは水痘・帯状疱疹ウイルスを弱毒化したものを原材料として作られており、それが体内で増殖して免疫を高めていくため、接種の回数は少なくても済みます。みずぼうそうワクチンは2回接種することで、1回の接種よりも十分な免疫をもつことができると報告されています^{*5}。

- * 5 国立感染症研究所：病原微生物検出情報月報 Vol.34 No.10 (No.404) <https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/iasr/34/404j.pdf>

感染症Q&A

Q

みずぼうそうは何度もかかるのですか

A

みずぼうそうは一度かかると免疫ができるので、何度もかかることはありません。しかし、みずぼうそうが治った後もウイルスは生涯にわたって体内に潜み、加齢やストレスなどで免疫力が低下すると、帯状疱疹として症状が現れることがあります。80歳になるまでに3人に1人が帯状疱疹を経験するといわれています^{*6}。帯状疱疹の予防には、帯状疱疹予防ワクチンの接種が有効です。50歳以上の人は任意接種としてワクチンを接種できます。接種を希望する場合は、医師に相談しましょう。

- * 6 国立感染症研究所：帯状疱疹ワクチン ファクトシート 平成29(2017)年2月10日 <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10601000-Daijinkanboukouseikagaku-Kouseikagaku/0000185900.pdf>

ミニ
コラム

みずぼうそうの発疹

みずぼうそうの主な症状は特徴的な発疹で、一般的に皮膚の赤み(紅斑)や斑点状の赤いブツブツ(丘疹)がでた後にみずぶくれ(水疱)ができ、かさぶた(痂皮)となります。発疹はかゆみを伴い、体温が高くなったり汗をかいたりするとかゆみが増すので、衣服や寝具に気をつけ室内温度を調整しましょう。また、発疹をかきむしると傷口から細菌に感染したり、あとが残ったりすることもあるので、皮膚を傷つけないようお子さんの爪は短く切るようにしましょう。



水痘ワクチン

(みずぼうそうワクチン)

定期
接種

わすれないでね、
早めの2回目接種。

水痘ワクチン 接種スケジュール▶▶

- ▶ 満1歳になったらなるべく早く接種しましょう!
- ▶ 2回目の接種も忘れずに。

1回目【標準的な接種期間】
1歳～1歳3か月

2回目【標準的な接種期間】
1回目接種終了後6～12か月の間隔をあける

1歳



3か月以上あける



2歳